厚生労働科学研究補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

9. SAS 検診におけるオンライン医療相談

研究分担者　吉嶺裕之　社会医療法人春回会　井上病院　院長

研究要旨

職業運転手に対する SAS スクリーニングにおいて、オンラインにて説明を行うことで、受診者は精密検査や治療に関して前向きになった。しかしこれらが実効されるか否かは、企業側の経済的支援が要因と思われた。

A. 研究目的

睡眠時無呼吸症候群（以下、SAS）関連の居眠り運転および心血管イベントによる交通事故を減らすために、職業ドライバーに対するSAS検診および治療導入は重要である。また、治療を受けるべき者が確実に治療に結びつく新たな取り組みが求められている。スマートフォンを活用したオンライン医療相談を加味した SAS 検診はこの問題の解決に有用かもしれない。

B. 研究方法

公共および民間運輸系企業4社に勤務している運転ドライバー315名を対象とし、パルスオキシメーターもしくは簡易ポリグラフによる SAS のスクリーニングを行った。その後、要精査となった方を対象として SAS 専門医がオンラインで個別の状態に応じた医学的判断を伴わない一般的な事項の説明を行い、その前後にアンケート調査を行った。利用者の理解度、満足度、医療相談実施件数、精密検査（PSG）実施件数などを調査した。

C. 研究結果

スクリーニングを実施した302例中3%ODI <5は127名（42%），3%ODI 5≦，＜15 127名（42%）、15≦、＜30が35名（12%）、30≦ 13名（4%）であった。要精密検査者は77名（24.4%）であった。そのうち、オンライン医療相談実施者は 52 名（16.5%）であったが、一社は一例も依頼がなかった。

オンライン医療相談の実施前後でのアンケート結果は以下の通り。

「精密検査が必要と判断された場合に受診しますか？」の設問に、受診したくない方は 25.0%（前）から7.5%（後）と70%の減少が見られた。また、「治療が必要と判断された場合、治療を受けたいですか？」との設問に、「治療を受けたくない。」との回答者は 12.5%（前）から 2.5%（後）と 80%の減少が見られた。被検者に対するオンライン医療相談後のアンケートでは、「SAS についての理解が深まった」「自分の検診結果について理解できた。」「オンライン医療相談を受けてみて良かっ

た。」との好意的な回答が多くみられた。

次に、検診受信者が多い二社（A 社 132 名、B 社 125 名）について精密検査および治療の導入について検討を行った。A 社は医療相談を実施した 27 名中 25 名とほとんど PSG を実施したのに対し、B 社は 22 名中 1 名であった。この理由として、A 社は企業が全額精密検査費用を負担するのに対し、B 社は従業員が費用負担を行う事がわかった。また A 社においては AHI>20 が 10 名いたが、CPAP を導入した方はわずか 3 名にとどまり、マウスピースや減量を選ぶ方が多かった。

D. 考察

SAS 検診を受けた運転手に対しオンラインにて1対1で疾患などの説明を行うことで、運転手は精密検査や治療を受ける事に対して前向きになった。今回は睡眠医療専門医師がオンライン検診を実施したが、患者の個別的な状態に応じた医学的な判断を伴わない一般的な受診勧奨については、医師以外でも遠隔健康医療相談として実施することができる。今後、業務フローの標準化を行うことで、医師以外の医療職への業務移管（タスクシフト）の可能性についての検証が必要である。

検診を実施するだけでは、必ずしも精密検査や治療には結びつかない。有効性の高い SAS 検診システムにするためには、SAS 検診実施企業が経済的支援を含め包括的な支援体制を作ることがもとめられる。

E. 結論

オンライン医療相談を用いた SAS 検診は有効性と効率性については、さらなる検証が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) なし

2. 学会発表

1) 第 23 回日本遠隔医療学会学術大会（2019 年 10 月 5 日 盛岡市）にて発表を行った。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし